

水資源機構 低入札価格審査委員会 審議概要

平成22年度第1回低入札価格審査委員会については下記の通り書類の回議をもって審議が行われ、調査結果については了承された。

日 時：平成22年6月11日及び14日

委 員

委員長 小澤 一雅 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授
尾野村 祐治 ジャーナリスト
高田 敏明 弁護士

(五十音順敬称略)

議 事：【滝沢ダム滝ノ沢地区排水トンネル工事の調査結果及び対処方針について】

調査結果：低入札価格調査制度における重点調査を評価値第1位の者について行ったところ、技術提案と積算内訳書の施工計画との間の不整合や積算内訳書における多数の未計上費用が確認されるなどしたことから、「賃金の不払い」及び「下請けへのしわ寄せ」の恐れがあり、当該契約の内容に適合した履行が行われるとは判断できない。このことから、評価値第2位の者に対し、低入札価格調査を行い適切に施工できるものと認められる場合は、評価値第2位の者を落札者とする。

審議の概要

- ・重点調査の結果の処理については、法的な観点から問題がないと考える。
- ・重点調査を行う場合は、効率の良い事務処理をして欲しい。そのことによつて建設業者も機構も経費を節約できることから国民も利益を得られる。
- ・調査基準価格は積算価格を基に算定することから、事務処理過程が複雑になることが無いよう配慮しつつ、積算価格の算定ミスを防止するための対策を講じるべきである。
- ・積算価格の算定ミスについては、これを無くすようにするための努力はもちろん必要であるが、不可避な面もあることから、これを前提にした制度を検討して欲しい。